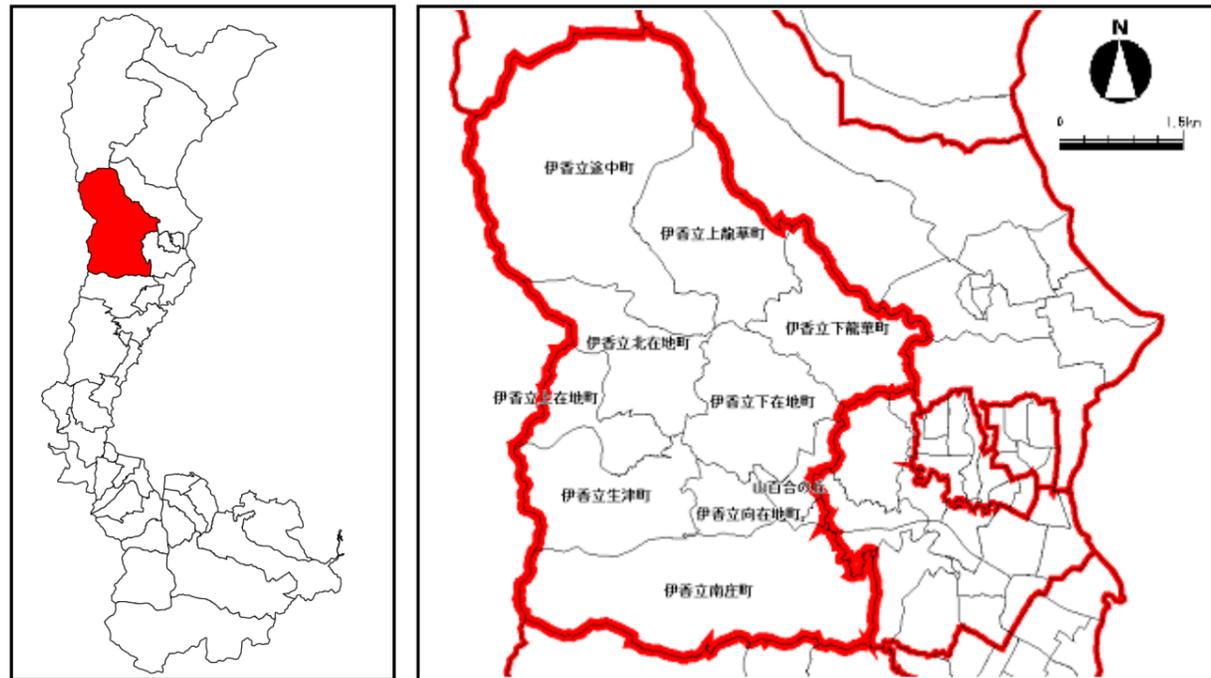


■ 学区の概況



<町丁名>

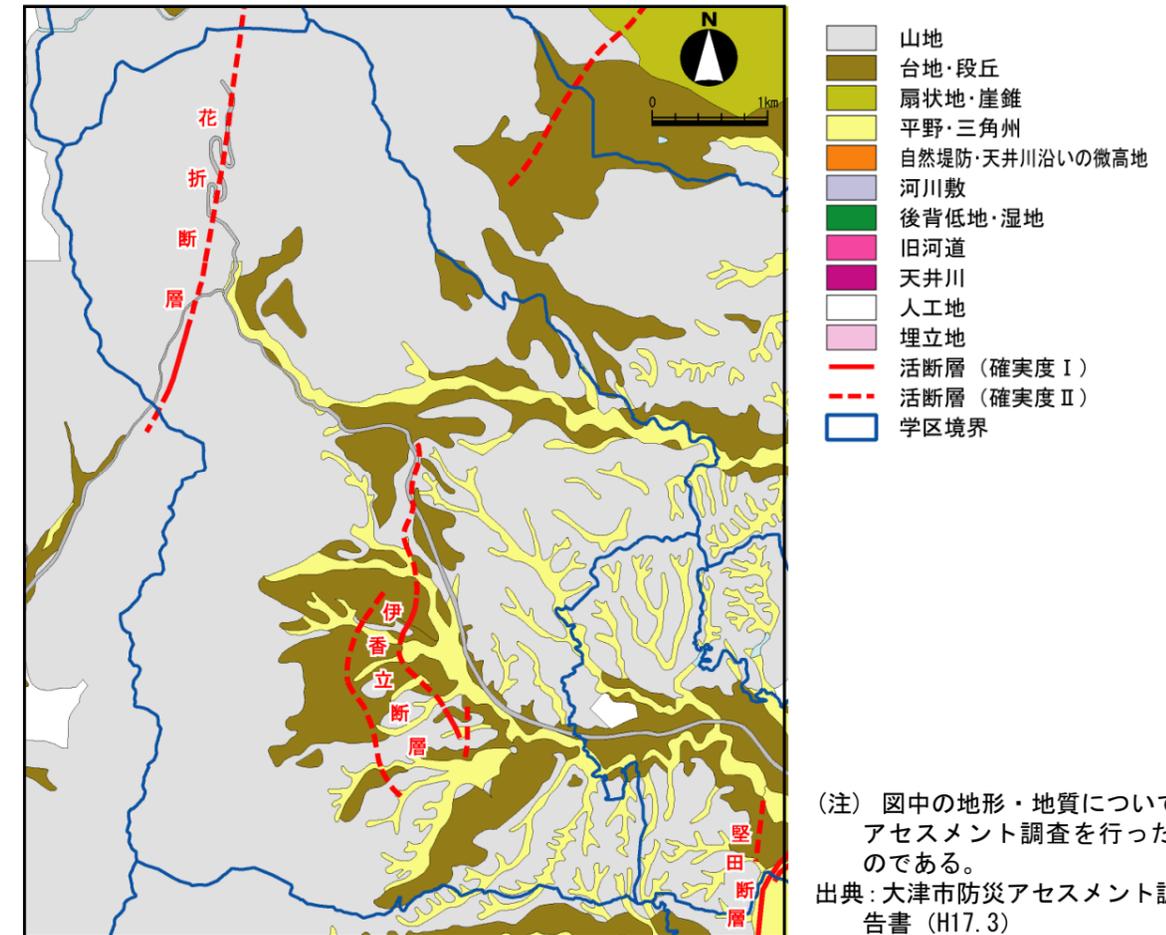
伊香立向在地町、伊香立生津町、伊香立上在地町、伊香立北在地町、伊香立下在地町、伊香立南庄町、伊香立上龍華町、伊香立下龍華町、伊香立途中町、山百合の丘

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

<学区の特徴>

伊香立学区は比良山地と比叡山地の間に位置し、真野川と和邇川の流域に約 10 集落が点在している。かつては伊香立越・途中越で京都と結ばれ、葛川や北陸へは鯖街道（若狭路）が通じ、行者や村民の生活道路とされていた。室町時代に浄土宗総本山と深い関わりを持つに至り、新知恩院が建立された地でもある。また、現在、東京国立科学博物館に保管されている東洋象化石が出土した地域としても有名である。一方、この地域の山と溪流に囲まれた棚田やため池等の里山自然環境(生き物、景観等)は、世界的にも大きな価値があるといわれている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 伊香立学区の北部及び西部は山地からなり、権現山や霊仙山などが位置している。地域の南東部は堅田丘陵に相当し、河川沿いでは段丘や平野が分布している。

<地質の特徴>

- 北部及び西部の山地は、主に丹波帯とよばれる中生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の碎屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 権現山は比良花崗岩、霊仙山は霊仙花崗閃緑岩からなる。これらは中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。
- 南東部に広がる堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。これは約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。
- 伊香立南庄町竜ヶ谷に分布する堅田累層からは、東洋象の化石が発見された。和邇川や真野川、世渡川沿いには、最終間氷期以降に形成されたと推定される、段丘堆積物が堆積している。

<活断層の特徴>

- 花折峠から途中越にかけて、花折断層が通過している。花折断層は高島市の水坂峠から京都市左京区吉田山付近まで伸びる、長さ約 48km の右横ずれ断層である。
- 中南部には、伊香立断層が南北走向に 2 条分布している。伊香立断層は縦ずれ断層で、東側の断層は断層を挟んで西側が隆起し、西側の断層は東側が隆起している。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) ^(注1)	不燃領域率 (%) ^(注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
伊香立向在地町	40.4	94.7	70.5	74.5
伊香立生津町	42.8	97.6	86.2	83.6
伊香立上在地町	11.8	95.0	91.8	74.6
伊香立北在地町	41.0	98.9	69.7	77.2
伊香立下在地町	44.3	97.0	77.3	74.2
伊香立南庄町	40.4	97.5	78.0	77.9
伊香立上龍華町	37.0	98.6	82.8	54.6
伊香立下龍華町	36.7	95.7	60.9	72.4
伊香立途中町	37.6	99.3	84.4	63.6
山百合の丘	69.9	93.4	82.8	0.0
学区平均	39.2	97.8	76.9	65.7
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 39.2 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha を下回り、市内で最も低い。
- 不燃領域率の学区平均は 97.8% で市平均の 93.9% を上回り、市内で 3 番目に高い。これは、田畑・山林の占める割合が非常に高いことに起因する。
- 木造率は伊香立上在地町が 91.8% で最も大きく、伊香立下龍華町が 60.9% で最も小さい。
- 木造率の学区平均は 76.9% で市平均の 72.7% より高い。
- 旧耐震木造建物割合の学区平均は 65.7% で市平均の 40.3% を大きく上回り、市内で 5 番目に高い。

■ 人口の状況

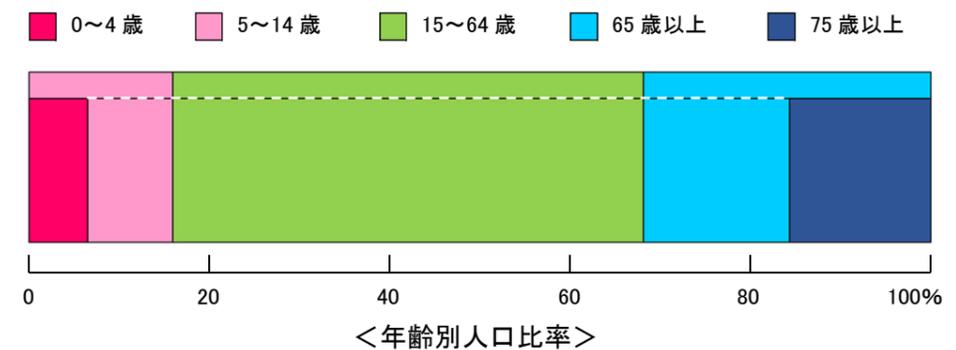
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	2,799	人		—	1
年齢別 (0~4 歳)	183	人	学区人口に対する割合	6.5	1
年齢別 (5~14 歳)	264	人	学区人口に対する割合	9.4	1
年齢別 (15~64 歳)	1,461	人	学区人口に対する割合	52.2	1
年齢別 (65 歳以上)	891	人	学区人口に対する割合	31.8	1
年齢別 (75 歳以上)	437	人	学区人口に対する割合	15.6	1
世帯数	1,216	世帯		—	2
1 世帯当たり人口	2.3	人/世帯		—	2
要介護認定者	197	人	学区人口に対する割合	7.0	3
身体障害者 (要配慮者)	54	人	学区人口に対する割合	1.9	4
知的障害者 (要配慮者)	10	人	学区人口に対する割合	0.4	4
外国人居住者	60	人	学区人口に対する割合	2.1	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 人口のほとんどが国道 477 号及び主要地方道 47 号周辺に集中している。
- 学区人口は、市内で 5 番目に少ない。
- 高齢者 (65 歳以上) は 891 人、乳幼児 (0~4 歳) は 183 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 31.8%、6.5% である。
- 高齢者の学区人口は、市内で 4 番目に少ない。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より高い。
- 要介護認定者は 197 人 (7.0%)、身体障害者 (要配慮者) は 54 人 (1.9%)、知的障害者 (要配慮者) は 10 人 (0.4%) である。
- 外国人居住者は 60 人 (2.1%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 <small>(注1)</small>	87 箇所	1
土石流危険渓流 <small>(注1)</small>	20 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	62 箇所	2
土砂災害警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	93 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） <small>(注1)</small>	26 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） <small>(注1)</small>	14 箇所	3
雪崩危険箇所 <small>(注1)</small>	6 箇所	4
地すべり防止区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	5
地すべり危険箇所 <small>(注1)</small>	4 箇所	1
浸水想定区域 <small>(注3)</small> (0.0m~0.5m)	0 m ²	6
(0.5m~1.0m)	0 m ²	6
(1.0m~2.0m)	0 m ²	6
(2.0m~)	0 m ²	6
特に重要な水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
重要水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 <small>(注1)</small>	16 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 学区の大部分が山地もしくは丘陵地であり、地すべり危険箇所に指定されている斜面が多数分布している。
- 土石流危険渓流や山地災害危険渓流も多数あり、それらの多くが集落に向かって広がっていることから、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。また、地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して2次的災害が発生する可能性もある。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 学区内には、花折断層と伊香立断層が通過している。これらの断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 緊急輸送道路の確保も課題である。学区内には、国道367号と国道477号が緊急輸送道路に指定されているが、伊香立途中町では国道367号と花折断層が並走している。また国道477号は伊香立途中町と伊香立上龍華町間で山地の狭窄部を通過しており、仮にこれらの国道が災害によって寸断された場合の対策も視野に入れる必要がある。
- 高齢者数が学区人口の約3割を占めていることや、学区内に医療施設がないことについても対策が必要である。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	伊香立小学校グラウンド	○	○	○		伊香立生津町 132-1
	伊香立中学校グラウンド	○	○	○		伊香立下在地町 414
	伊香立保育園グラウンド		○	○		伊香立下龍華町 566
	伊香立公園	○	○	○	○	山百合の丘 4-1
指定緊急避難場所兼指定避難所	伊香立市民センター	○	○	○		伊香立生津町 133-1
	伊香立小学校体育館	○	○	○		伊香立生津町 132-1
	伊香立中学校体育館	○	○	○		伊香立下在地町 414
	伊香立児童館	○	○	○		伊香立下龍華町 584-157
	伊香立ふれあいセンター	○	○	○		伊香立下龍華町 584-157
	伊香立環境交流館	○	○	○		伊香立下在地町 1222-1
	伊香立児童クラブ	○	○	○		伊香立下在地町 1222-1
指定避難所	(福) 滋賀県立北大津養護学校体育館				—	伊香立向在地町 25

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※(福)印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
伊香立市民センター	伊香立生津町 133-1	598-2001

<警察 110>

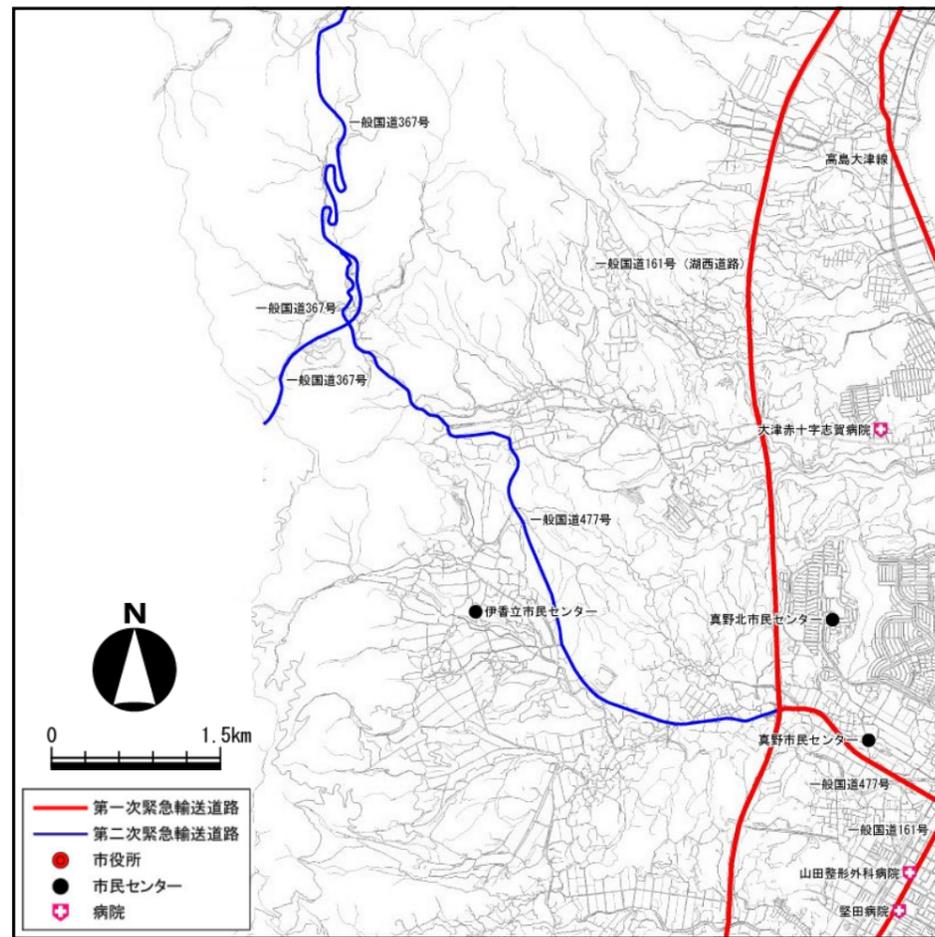
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津北警察署	真野二丁目 20-23	573-1234
伊香立駐在所	伊香立下在地町 1148-1	598-2044

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
北消防署	真野二丁目 23-1	572-0119
伊香立分団	伊香立生津町 133-1	598-2034



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	1,227	2,732	261	319	420	6	3	4	40	27	25	2	1	1
ケース2	1,227	2,732	377	313	533	12	6	7	41	27	26	2	1	1
ケース3	1,227	2,732	88	285	230	1	1	1	43	26	27	3	2	2

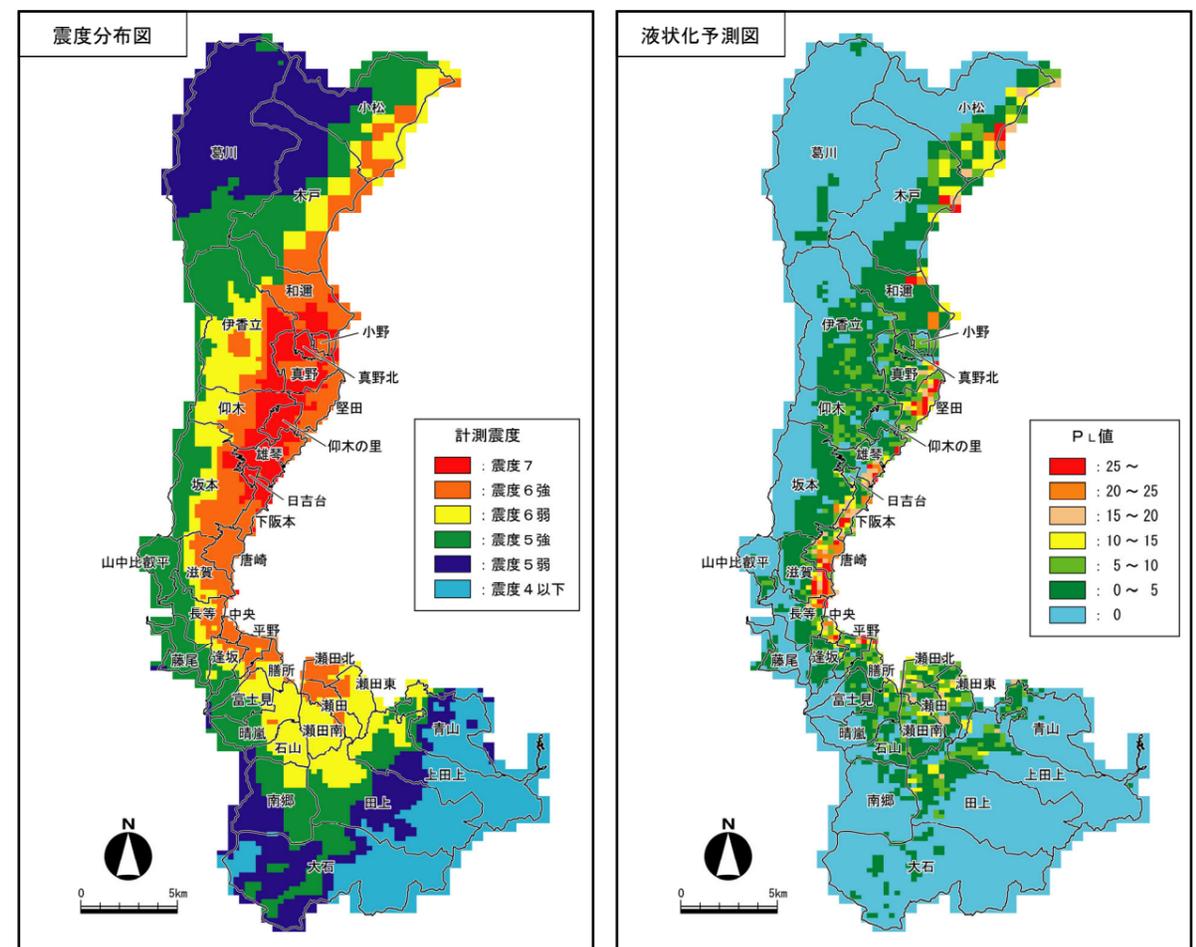
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
	ケース1	0	0	
ケース2	0	1	1	450
ケース3	0	0	0	242

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

